

心に響く映像教材の活用のあり方 —「夢の架け橋」(千葉県教育委員会)を使って—

1. 設定理由

安房道徳研究会では「子どもに生きる力を育てる道徳指導の深まりを求めて—道徳的実践力を育てる道徳の時間のあり方—」を研究部のテーマに設定し、日々実践に取り組んでいる。今年度、千葉県教育委員会より『『いのち』のつながりと輝き』を主題とした千葉県の道徳教育の体系化と重点化、教員の指導力向上と効果的な教材及び指導資料の提供、高等学校における道徳教育の推進のための映像教材が配布された。本研究会では、これまで多くの視聴覚資料の実践を行ってきたが、本資料の有効な活用方法模索し、子ども達の心に響く授業実践のための検証を試みた。

2. 研究内容

道徳映像教材「夢の架け橋」(千葉県教育委員会)を用いて、道徳の手引き(千葉県教育委員会編)の指導案に基づき、二つのねらい(1—(4)「理想の実現」と4—(10)「国際貢献」)について授業実践を行いその活用方法を検証する。

1—(4)「理想の実現」授業者 七条祐一(三芳中)

4—(10)「国際貢献」授業者 上田敏明・和田哲(白浜中)・松坂和哉(館山二中)

3. 成果と課題

DVDの内容としては、よくまとまっており、子ども達も熱心かつ真剣に見ていた。演技も展開もすっきりしており、DVDの視聴だけでもかなりとらえられていたようである。しかしながら、一つの資料で二つの展開があるため、価値も二面が内在し、授業者の意図する方向に向かわせる努力を要する。また、DVDも22分と長く、深まりのある話し合いの実施には、2時間展開など、工夫が必要であろう。

原作である「中学生の新しい道」(千葉県校長会編)では、国際貢献をねらいとしているため、その方向での映像資料作りがよかったのではないと思われるが、今後本資料を部分的に活用するなど有効な方法を探っていきたい。